



「順境にあつて侮らず、逆境にあつて焦らず」

校長 青海 正

卒業式の式辞の中で、国語の授業で学ぶ、枕草子、徒然草（つれづれぐさ）と並んで日本古典文学の三大随筆に挙げられている、鴨長明（かものちょうめい）の書いた「方丈記」の冒頭を引用しました。

鴨長明が生きた時代は、まさに動乱の時代でした。貴族が様々な乱（大きな騒動や争い）により衰退し、武家の勢力が台頭しました。平氏が政権に就くものの、源平争乱の末に源氏による鎌倉幕府が誕生します。

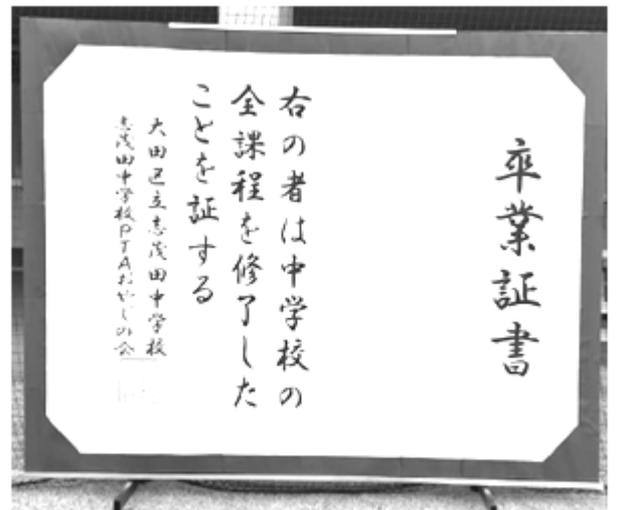
あまりにも変化の激しい時代の潮流に、世の中の価値観が一変し、誰もが世の全てものは常に移り変わり、いつまでも同じものは無いという、無常観を感じている時代でした。

私たちが生きている今の時代も、正にそのような時代なのではないでしょうか。

また、長い人生では、楽しい事や嬉しい事もあれば、辛い事や悲しい事もあるものです。何が幸福で、何がそうでないかは、直ぐに決まるものではありません。順境（じゅんきょう）にあつて侮（あなど）らず、逆境にあつて焦（あせ）らず、常に前を向き、一步一步着実に歩みを進めていくことが大切です。

さらに、卒業した皆さんには、一人一人が自分の生き方を深く考え、自分の良さを十分に発揮して、豊かな人生を切り拓いていくことを期待していることなど、思いを式辞に込めました。

これは同時に、送り出す在校生の皆さんへのメッセージでもあります。バトンは確かに、在校生に渡りました。



最後になりましたが、地域・保護者、関係機関の皆様におかれましては、今年度も本校の教育活動にご理解とご協力を賜りましたことに、教職員を代表いたしまして、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。